

令和 2 年 5 月 19 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2017～2019

課題番号：17H03877

研究課題名（和文）次世代型農企業のイノベーションマネジメント理論の構築に関する研究

研究課題名（英文）Study on construction of innovation management theory for next-generation agricultural management

研究代表者

小田 滋晃（ODA, Shigeaki）

京都大学・農学研究科・教授

研究者番号：70169308

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 12,400,000円

研究成果の概要（和文）：人と農地に焦点を当て、農業にとって重要な2つの資源の保全・再生に対して「農企業」が果たす役割について、分析・考察を行った。特に、地域の影響をふまえて、より広いタイプの担い手が耕作放棄地の解消に寄与することを想定したうえで、耕作者と農地の結びつきが耕作放棄地解消の要であるという視点から課題を設定した。これらの課題に対し、各典型的な事例への実態調査に基づき、担い手の確保・育成と農地保全・再生を関連付けた理想的モデルを提示しながらその駆動メカニズムを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

次世代型農企業による地域農業のリーディングに関する分析結果に基づき構築される個別農業経営と地域農業の相補性を再構築するための理論は、今後の農業振興に関わる研究に有効な分析枠組みを与える。そのために必要となる次世代型農企業が革新を継続的に産み出すアントレプレナーシップおよびイノベーションマネジメントの理論構築を行い、両次元に整合的な農業経営支援策を具体化することができる。

また、次世代型農企業における事業運営にイノベーションマネジメントを導入することの理論は、条件不利地域の農業経営が直面しており、生産の効率化、差別化・付加価値化、多角的事業展開等の限界への対応を検討するための枠組みとなる

研究成果の概要（英文）： Focusing on farmers and farmland, we analyzed and considered the role played by "agricultural management" in the conservation and regeneration of two important resources for agriculture. In particular, taking into consideration the influence of the region, assuming that a wider type of bearer will contribute to the elimination of abandoned cultivated land, the connection between the farmers and the farmland is the key to eliminating the abandoned cultivated land. For these issues, the driving mechanism was clarified based on the fact-finding survey on typical cases, while presenting an ideal model that links securing and training of bearers with farmland conservation and regeneration.

研究分野：農業経営学

キーワード：イノベーション アントレプレナーシップ 農業資源の保全 農企業

1. 研究開始当初の背景

個別農業経営と地域農業の相補関係を再構築し地域農業を次世代へつなぐためには、両次元での生産の効率化および事業の発展が必要かつ重要である。この点で、次世代型農企業とは、自ら革新を起こし経営および地域農業にそれを伝播・導入する役割を担うことにおいて概念化される農業経営体であり、そのことを可能とするイノベーションマネジメントに関する理論構築が求められるのである。研究を進めるに当たっては、アントレプレナーシップ論を援用しつつ次世代型農企業のイノベーションマネジメントに接近する。

なぜなら、第一に、農業経営を飛躍的な発展へと導く革新を遂行する個人および組織をアントレプレナーとして捉え分析することは、イノベーションマネジメントを担う主体の機能の解明に有効な視座を与えるからである。すなわち、アントレプレナーによる農業経営の成長の動態をアントレプレナーシップとして捉えることにより、革新に関わる経営管理と経営成長を一体的に分析することが可能となる。

具体的には、飛躍的な経営成長を遂げる農業経営者(個人)および農業経営(組織)としての経営管理能力のあり様、組織構造の再編方向、経営体を取り巻く制度や環境などの条件整備などが一体的に分析対象化される。

2. 研究の目的

本研究の目的は、自己の経営成長を図りつつ地域農業をリーディングする役割を担う農業経営に関して新たに「次世代型農企業」を概念化し、その事業運営において革新(新結合・創造的破壊)を継続して産み出す「イノベーションマネジメント」(文献[1])を確立するための理論構築、さらには実践に関わる条件を明らかにすることである。「次世代型農企業」を新たに概念化することの必要性は、個別農業経営と地域農業の両次元間の成長・振興方向の不整合が拡大しつつあり、種々の非効率が生じつつあるとの現状認識に基づく。すなわち、これまでの産地振興を中心とする農業振興により形成されてきた両次元間の相補関係が崩れ、地域農業を「次世代へつなぐ」ことが困難化している地域が散見される。したがって、その是正に向けた農業に革新をもたらす新たな経営体概念が必要と考えるものである。

本研究は、これまでの経営規模に依拠した「担い手農家」概念の限界に対して、地域農業のリーディング機能に基づく「次世代型農企業」概念を構築した上で、次世代型農企業が継続的に革新を行うことによる個別農業経営と地域農業の両次元間の相補性の再構築策を検討することを課題とする。このような研究課題に対して、次世代型農企業におけるイノベーションマネジメントの確立のための理論構築を行い、実践のための条件整備を明らかにすることが具体的な研究内容となる。接近視角としてはアントレプレナーシップ論を併せ援用する。このことにより、イノベーションマネジメントを担う農業経営者および組織としてのアントレプレナー機能の解明、および経営成長と経営管理の一体的な動態をアントレプレナーシップと捉えての分析が可能となる。これらの研究課題および接近視角は農業経営および地域農業に対する独創的なアプローチであるといえる。とくに、アントレプレナーシップ論を視角として接近することにより、生産現場における近年の変化の理解と今後の農業振興および農業経営の成長の方向に関する理論の精緻化、さらには、研究成果を生産現場へ適用するための実践的な検討が可能となる。

3. 研究の方法

3ヶ年を通じて本研究の課題へ接近する上で、多様な形態・特質を有する次世代型農企業について、それぞれの特質に応じて地域農業のリーディング機能およびアントレプレナーシップがどのように充足されているかを明らかにした上で、イノベーションマネジメントのあり方を検討することが必要となる。そのため、既存研究において導出した次世代型農企業の6の類型(下表を参照)について、研究分担者の担当制により調査する。

次世代型農企業の区分	調査地	調査分担者
伝統的(あるいは従来型)家族農業経営	北海道・和歌山・愛媛 南フランス	小田、新開、 桂
「伝統的家族農業経営」からの発展型農業経営	福島・京都・北加州・オランダ	小田、長命、 川崎
地域貢献型集落営農組織・任意生産組織等	佐渡・京都・島根	伊庭、坂本、 小田 伊藤
経営発展型集落営農組織・任意生産組織等	滋賀・兵庫・佐賀	桂、川崎、新開
新たな流通形態をとる農業経営	愛媛・群馬・奈良・和歌山・群馬	宮部、堀田、 新開、堀田、 長命、坂本

	農外企業が実質的に直営し発展した農業経営	石川・大阪・北加州・オランダ	全メンバー
--	----------------------	----------------	-------

上の表の国内調査地は、代表者・研究分担者がこれまでに得た知見にもとづき、各類型に該当すると目される経営事例の存する場所として選抜した。海外調査地については、特にイノベーションマネジメントに関して国内事例調査への補強および比較のベンチマークとするため、農業経営と地域社会・経済への結びつきの両面で革新的な経営管理を行っている目される事例の存する地域を選抜した。具体的には、伝統的な家族経営ブドウ生産者とワイン醸造協同組合との共存関係に着目して南フランス、ICT化の進むスマート園芸農業と大学や食品産業を含む地域産業クラスターに着目してオランダ、生産者と地域を結ぶ CSA に着目して米国北部カリフォルニア（北加）州を比較調査地とする。

4. 研究成果

研究成果として、第一に先進的な経営体の取り組みでは、その経営と地域への支援が目されがちであるが、多かれ少なかれ地域からの支援が見出せた。また、地域からの支援も地域への支援もどちらかが単独で存在しているわけではなく、相互に関係しており、短期的には単独とみえても長期的には相互の支え合いになっていることを考察した。その仕組みは、地域農家との契約栽培に始まり、不足がちな品目を生産するための農業参入に至っていた。

第二に、環境保全に配慮した農業を实践する上で必要となる種子の調達を担う組織のマネジメントおよびガバナンスの構造と機能を明らかにした。環境保全に配慮した農業を实践するための種子について、一般種子のような流通網は整備されていない。このことから、組織的に種子の需要と供給をマッチングする取り組みが極めて重要であり、種子流通を事業化し運営する組織の機能が重要となっていることを明らかとした。

第三に、人と農地に焦点を当て、農業にとって重要な2つの資源の保全・再生に対して「農企業」が果たす役割について、分析・考察を行った。特に、地域の影響をふまえて、より広いタイプの担い手が耕作放棄地の解消に寄与することを想定したうえで、耕作者と農地の結びつきが耕作放棄地解消の要であるという視点から課題を設定した。これらの課題に対し、各典型的な事例への実態調査に基づき、担い手の確保・育成と農地保全・再生を関連付けた理念的モデルを提示しながらその駆動メカニズムを明らかにした。

事例研究より、新規参入者が否応なく耕作放棄された農地の再生に関与せざるを得ない現状から、新規参入者への支援こそが農業生産諸資源の保全・再生の出発点であり、保全・再生の駆動メカニズムのエンジン部分になっていることが明らかとなった。また、メカニズムを構成する要素としては、自然的条件をもとに個別経営体の能力や技能・技術がまず位置付けられた。次に、その資質を開花するための努力と忍耐、それらを支える行政支援の受け入れも不可欠となる。さらに、地域ビジョンを共有する能力を有することで、これらの要素が好循環し、農地の保全・再生に向かうメカニズムが駆動されていることが明らかとなった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 川崎訓昭	4. 巻 56巻4号
2. 論文標題 柑橘産地の産地再編に伴う組織間対立とその調整方法に関する分析	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 農業経営研究	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 新開章司	4. 巻 332
2. 論文標題 地産地消の戦略的展開 - 米国カリフォルニア州のファーマーズマーケットを参考に -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 都市計画	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 宮部和幸	4. 巻 83-11
2. 論文標題 花きの商品的特質と卸売市場機能	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 農業と経済	6. 最初と最後の頁 64-69
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小田滋晃・川崎訓昭・坂本清彦	4. 巻 23
2. 論文標題 地域が/を支える先進的農業経営体 --その論理と理念的モデル化-	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 生物資源経済研究	6. 最初と最後の頁 41-53
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 岡田ちから、伊庭治彦
2. 発表標題 米国における作物多様性の保全活動に関する考察 - Organic Seed Allianceを事例として
3. 学会等名 地域農林経済学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shigeaki Oda, Toshihiro Takai, Noriaki Kawasaki, Kiyohiko Sakamoto, Rikko Togawa, Haruhiko Iba, Yasushi Kobayashi, Takeshi Ueda and Tasuku Nagatani
2. 発表標題 The potential of wine-tourism for preservation of agricultural resources for the future generations
3. 学会等名 Oenoviti International (国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 小田滋晃、坂本清彦、川崎訓昭、横田茂永	4. 発行年 2019年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 177
3. 書名 「農企業」のムーブメント	

1. 著者名 小田滋晃・伊庭治彦・坂本清彦・川崎訓昭	4. 発行年 2017年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 179
3. 書名 次世代型農業の針路 「農企業」のリーダーシップ 先進的農業経営体と地域農業	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	川崎 訓昭 (KAWASAKI Noriaki) (10633737)	京都大学・農学研究科・特定助教 (14301)	
研究分担者	長命 洋佑 (CHOMEI Yosuke) (10635965)	九州大学・農学研究院・助教 (17102)	
研究分担者	新開 章司 (SHINKAI Shoji) (30335997)	福岡女子大学・国際文理学部・教授 (27103)	
研究分担者	坂本 清彦 (SAKAMOTO Kiyohiko) (30736666)	龍谷大学・社会学部・准教授 (34316)	
研究分担者	宮部 和幸 (MIYABE kazuyuki) (40409066)	日本大学・生物資源科学部・教授 (32665)	
研究分担者	伊庭 治彦 (IBA Haruhiko) (70303873)	京都大学・農学研究科・准教授 (14301)	
研究分担者	伊藤 亮司 (ITO Ryoji) (70334654)	新潟大学・自然科学系・助教 (13101)	
研究分担者	横田 茂永 (YOKOTA Shigenaga) (70827097)	京都大学・農学研究科・特定准教授 (14301)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	堀田 学 (HORITA Manabu) (80336916)	県立広島大学・生命環境学部・准教授 (25406)	
研究分担者	桂 明宏 (KATSURA Akihiro) (90233767)	京都府立大学・生命環境科学研究科・准教授 (24302)	削除：平成29年8月3日